

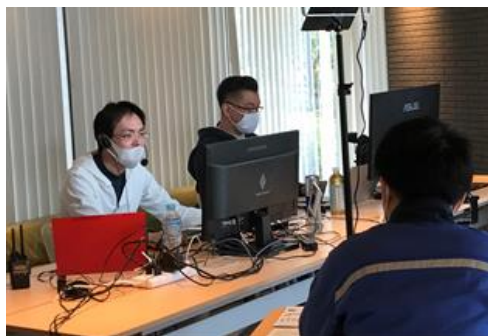
～いつ起こるかわからない災害に備えコロナ禍でも訓練を継続～
約 2,700 世帯を対象としたオンライン防災訓練を実施
津田沼エリアの5つのマンションで「72時間をどう生き抜くか」を考える訓練

三菱地所レジデンス株式会社（以下、三菱地所レジデンス）と三菱地所コミュニティ株式会社（以下、三菱地所コミュニティ）は、2022年3月13日（日）に、千葉県習志野市「津田沼」エリアにおいてオンライン防災訓練を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響が続き、防災訓練の実施が困難な状況が続いておりますが、いつ起こるかわからない災害に継続的に備えて行くために、オンラインを活用し、双方向型の防災訓練としました。

今年のテーマは「発災・被災生活 72時間をどう生き抜くか」。阪神・淡路大震災の生存率データや人間が水を飲まずに過ごせる限界などから言われる「72時間の壁」を乗り越えるよう、地震の揺れ、停電、復旧後についてどのようなことが想定されるのか、ご家族で真剣に考えることができるプログラムとしました。訓練ではコロナ禍でリアルな「体験」が難しくなっている中、実際に自宅の備えをその場で確認すること、あらかじめ居住者が体験した場面を映像にとり、それを視聴して感想を共有することで、参加者が自分事として考えられるようになることを目指し、オンラインでも「体験」を取り入れて実施しました。

■今回のオンライン訓練の特徴

- (1) 【ライブ配信】安否確認訓練にて「災害対策本部」の活動をライブ配信することで、普段住民が見ることができない運営側の動きを知る。
- (2) 【双方向型】ワークショップでは「72時間を生き抜く」をテーマに＜疑似体験＞を取り入れながら、自宅ですべて確認をし、＜マンションならではの対策＞と＜思わぬ被害＞を学ぶ。



▲中継の様子



▲チャットでの双方向のやりとり

今年で7回目となる「津田沼」エリアにおける防災訓練は2015年3月の「ザ・パークハウス 津田沼 奏の杜」（721戸）を手始めに、三菱地所レジデンスが分譲した4つのマンションを中心に実施してきました。今年は2020年4月に竣工した「津田沼ザ・タワー」（759戸）が加わり、5つのマンション計約2,700世帯が合同で行いました。

「津田沼」エリアでは、先行するマンションが周辺のマンション等にも声をかけてノウハウを共有しながら防災訓練実施世帯の範囲を広げています。今年はさらに習志野市に225ある自主防災組織にも案内をし、災害時に地域で助けあう体制づくりに取り組んでいます。

三菱地所グループは、サステナブルな社会の実現に向けて「三菱地所グループの Sustainable Development Goals 2030」を掲げており、「安全安心に配慮し災害に対応する強靱でしなやかなまちづくり」を進めています。三菱地所グループは、今後、防災への取り組みをより一層連携・協力して実施し、災害に強いまちづくりを推進してまいります。



■防災訓練内容

日 時：2022年3月13日（日）8:45～10:30

対 象 者：「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」管理組合

「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜テラス」管理組合

「ザ・レジデンス津田沼奏の杜」管理組合

「ザ・レジデンス津田沼奏の杜テラス」管理組合

「津田沼ザ・タワー」管理組合

内 容：8:45～ 各マンション安否確認・集計訓練

＜オンラインプログラム①＞安否確認訓練や災害対策本部の中継

9:30～ ＜オンラインプログラム②＞

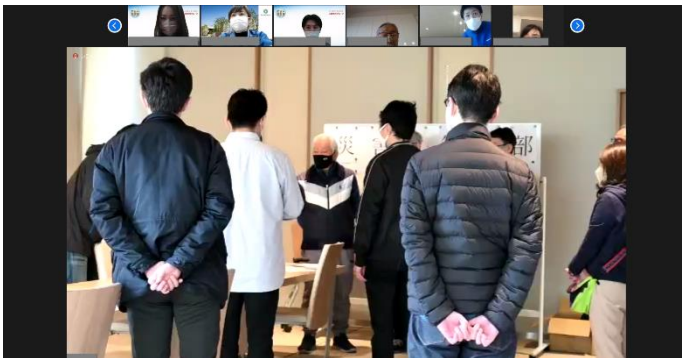
ワークショップ「発災・被災生活 72 時間をどう生き抜くか」

【オンラインプログラムの詳細】

今年で7回目となる「津田沼」エリアの防災訓練では、オンラインツール Zoom を活用したプログラムを開催しました。

＜オンラインプログラム①＞ 安否確認訓練や災害対策本部の中継

安否確認シートを住戸の扉に貼り出し、あらかじめ定めた居住者の担当者が巡回して、安否確認情報を収集します。[災害対策本部]の活動をライブ配信することで、普段住民が見ることができない運営側の動きを知ることができました。また、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震の被災地の声を交えながら「共助の大切さ」・「被災直後に起きたこと」を参加者に伝えました。



▲災害対策本部立ち上げの様子



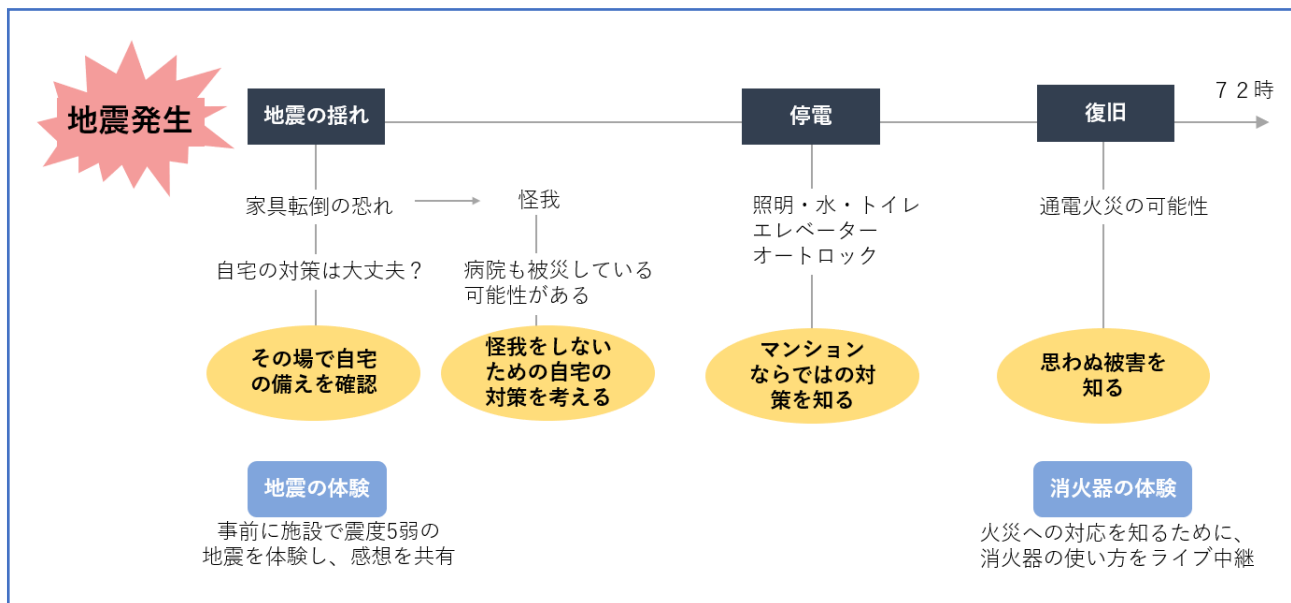
▲安否確認の様子

＜オンラインプログラム②＞ ワークショップ「発災・被災生活 72 時間をどう生き抜くか」

コロナ禍ではリアルな「体験」をすることが難しくなっているため、あらかじめ居住者が「体験」した事前録画の視聴と感想の共有など、参加者が自分事として考えることを目指し、オンライン訓練に体験の要素を取り入れて実施しました。

その中で、実際に地震が起きることを想定して、マンション住民が72時間を生き抜くための疑似体験を行いました。怪我をしないために参加者はその場で確認をしながら自宅の備えを考え、停電時にインフラがダウンした場合のマンションならではの被害や、復旧する段階では通電火災という思わぬ被害があることをチャットやアンケート機能を活用しながら参加者と考えました。

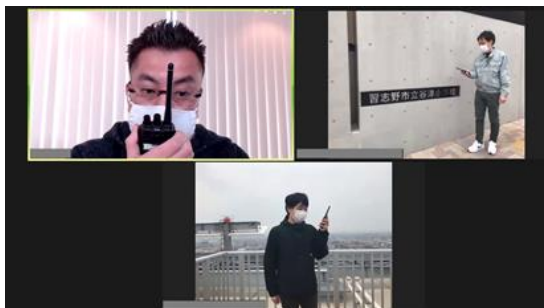
＜疑似体験＞地震の揺れ、停電、復旧後の72時間を生き抜くための疑似体験
＜その場で確認＞自宅で実際に「備えや危険箇所」を確認しながら参加
＜マンションならではの＞停電時のマンションならではの対策を知る
＜思わぬ被害＞電気が復旧する段階での通電火災という思わぬ被害を知る



▲消火器訓練の中継



▲Zoom 上でのアンケート



▲無線機で周辺と連携



▲安否確認訓練結果

■参加者のコメント

- ・家族で改めて話し合うきっかけになり、火災や耐震、トイレ面の対策を強化しようと思いました。まずは、自助(家庭内)を強化し、更には共助で地域でも活かせたらと思います。
- ・コロナ禍でも工夫して人と人がつながる機会を作って行きたいです。
- ・コミュニケーション、助け合いの輪を広げたいです。
- ・積極的に周りの方と知り合おうと思いました。
- ・まずはケガをしない！そのために備えることの重要性を学びました。そして誰かを助けられる人になりたいと思いました
- ・コミュニケーションの大切さももちろんですが、避難経路の確保のために、自宅、地域周辺の整理整頓に今まで以上に気を配りたいと思います。

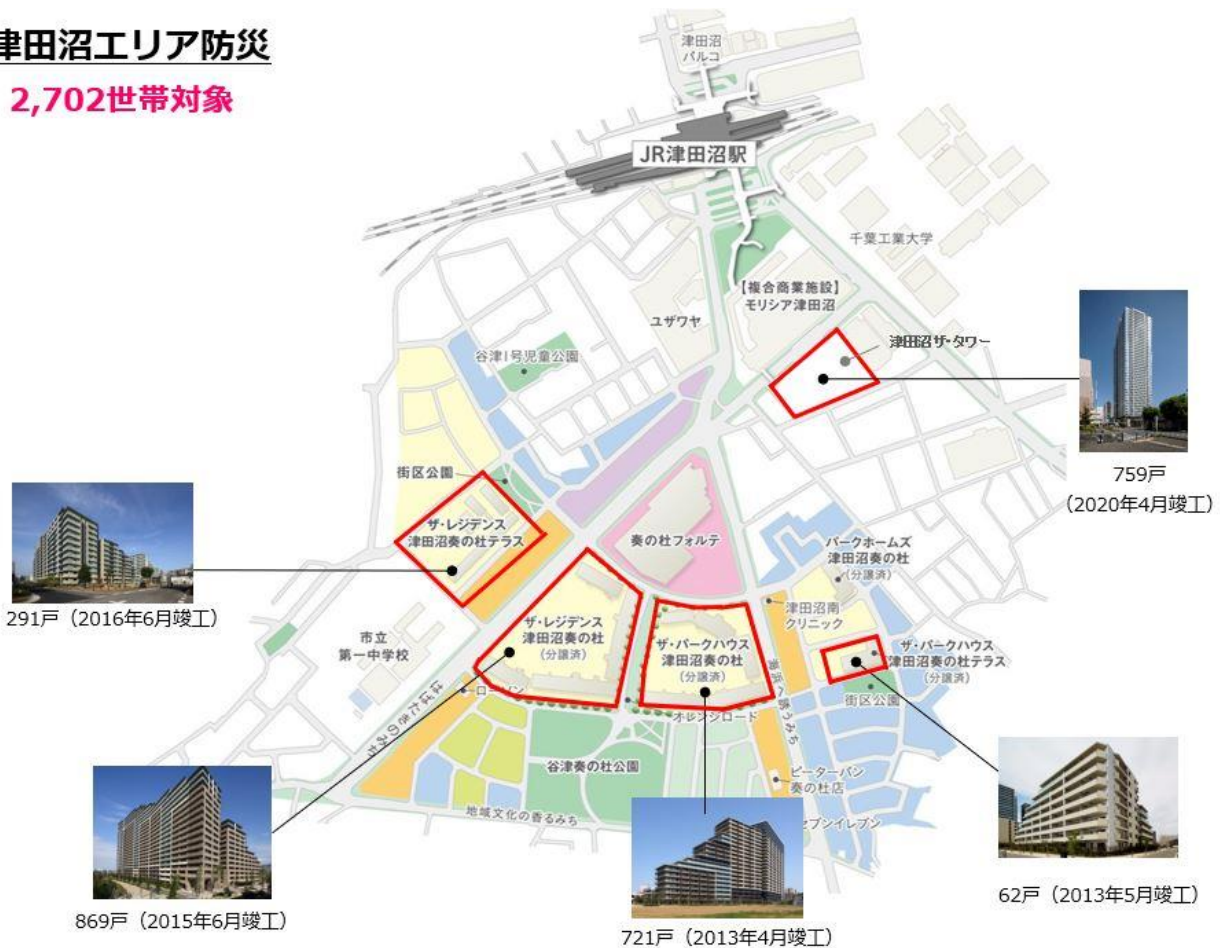


■同エリアにおける防災訓練のひろがり

2015年3月に「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」(721戸)で始まった防災訓練は、今年で7回目の訓練となり、周辺のマンション等にも声をかけていくことで、本訓練参加マンションの広がりや参加者の増加に繋がっています。今年には2020年4月に竣工した「津田沼ザ・タワー」を含む津田沼エリアにて三菱地所レジデンスが分譲した5つのマンション約2,700世帯に広がっています。

津田沼エリア防災

2,702世帯対象



■過去の災害から学ぶ「街との繋がり」

三菱地所グループでは、東日本大震災で被災された方々にお話を伺い、「どうせ腐るからと冷蔵庫の中の食材を出し合ってご近所同士でバーベキューをした」という“ご近所同士で被災生活を乗り越えた”事例や、都市部の災害でも「発電機を近隣のマンションから借りた。」という”災害時にマンションの「外」の繋がりにも助けられた。”という事例をお聞きしました。

あらためて街全体で繋がって助け合うことが重要だと考え、防災訓練やイベントを通じて「顔見知り」を増やし、災害時に助け合える街づくりに取り組んでいます。

SONAERU KARUTA

22

食糧

どの班が使うの？

生活班

いつ使うの？

初災時

停電と同時に食材が傷み始めます。

- 被災から数日は、自宅に備蓄している食料でしのげる家庭も多いと思いますが、停電している場合、冷蔵庫の生ものが傷んでしまいます。
- 傷んでしまった食材を食べて体調を崩すことは、被災時においては非常に危険なことです。

被災地の声

どうせ腐るからと冷蔵庫の中の食材を出し合ってご近所同士でBBQをした。

毎日炊き出しを行った。もらいに来た人には、次に来る時は米を持ってきてくださいとお願いし、復旧調達のしくみにした。商店からお肉など冷凍食品を提供してもらった。

指定避難所まで食料を取りに行ったが全然足りず、食材を持ち寄り炊き出しをした。婦人会が普段から炊き出し訓練をしていたので、備品もあった。

Q停電で傷みはじめる食材を、どうしますか？

SONAERU KARUTA

115★

運営

どの班が使うの？

本部長・副本部長 本部

いつ使うの？

被災生活期

災害時、マンションの「外」の繋がりにも助けられた。

- 普段からの繋がりのおかげで、発災時に近隣のマンションや地元行政から支援を受けられました。

被災地の声

マンションから避難したいという住民の要望があったが、地味な災害だったため行政は避難所を開設していなかった。区役所や近隣のマンションに掛け合って、会議室やゲストルームを開放してもらった。(※) (2019年神奈川)

地下3階の配電設備に浸水してマンション全棟が停電したため、発電機を近隣のマンションから借りた。マンション周辺の色々な方々の助けが得られてありがたかった。(※) (2019年神奈川)

※周辺地域がすべて被災する大規模災害においては、必ずしも周辺地域からの助けが得られるとは限りません。

Q近隣のマンションや地元行政との繋がり、ありますか？

【参考】三菱地所グループの防災の取り組み

約 100 年の想い：1923 年の関東大震災からはじまる三菱地所グループ防災の歴史



三菱地所グループでは、1923 年に発生した関東大震災以降、約 100 年にわたり大規模な防災訓練を実施しており、グループ全体で防災・減災に取り組んでいます。

写真は、関東大震災で丸の内に開設した臨時診療所。その壁には“ドナタデモ”と書かれています。この精神を受け継ぎ、マンション居住者に加え、世の中に役立つ防災活動を広く行っていきたいと考えました。

「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」：東日本大震災の声を届ける

東日本大震災・熊本地震等の生の声を届けるために、実際に困ったことを「トイレ」・「食糧」・「情報」といった切り口で伝える防災ツール「そなえるカルタ」。

子どもと大人が家族を想定して考える防災ツール「そなえるドリル」。

自分や家族のことを実際に書き、大人と相談して答えを出す要素を取り入れ具体的な行動につなげます。

この「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」は、ザ・パークハウスの防災プログラムホームページ上で“ドナタデモ”ダウンロードが可能です。

ザ・パークハウスの防災プログラムホームページ <http://www.mecsumai.com/bousai/>



三菱地所グループの防災倶楽部

三菱地所グループでは、防災訓練を積極的に実施・サポートしており、防災意識の向上や訓練の進化・深化を目的に三菱地所レジデンス社員有志によるボランティア組織「三菱地所グループの防災倶楽部」を 2014 年 10 月に立ち上げ、現在は三菱地所レジデンスと三菱地所コミュニティ約 130 名の社員で取り組んでいます。防災倶楽部はマンション管理組合に対し新たな訓練メニューなどを提案しており、これまでに三菱地所コミュニティが管理するマンション 104 物件・30,459 世帯を対象とした防災訓練をサポートしています。今後も災害に対し、迅速に対応できる体制構築を広く浸透させていくべく、防災力強化のための活動を行ってまいります。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>三菱地所株式会社 広報部 TEL：03-3287-5200

※本資料の配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、千葉県政記者クラブ